

★チャリティーラン特集号★

第 20 回 チャリティーラン in グローバルフェスタ JAPAN 2013

支援先は 認定NPO法人国境なき子どもたちの「バングラデシュ国ダッカ市のストリート・チルドレンに向けたドロップインセンター事業」に決定！



スタート直後のランナーの皆さん (20km の部)

第 20 回 チャリティーラン(CR) in グローバルフェスタ(GF)2013 にご参加の皆様、ボランティア・スタッフとしてご協力頂いた皆様、本当に有難うございました。

数年前からランナーや自転車利用者等の増加により接触事故やマナーの悪さによるトラブルが多発していました。全ての利用者が安全で安心な環境を創るため、学識経験者、地域・団体等の代表者、国・都・千代田区・警察の行政からなる「皇居周辺地域委員会」が 2011 年 12 月に設置され、その審議結果は、ワールドランナーズ・ジャパン(WRJ)も注目しておりました。今年 1 月 8 日「ランニング競技会、制限、皇居周辺、歩行者の安全に配慮」がマスコミ報道されました。スタート・ゴール地点を桜田門前広場の一か所に絞り、イベント参加人数 700 人以内、時間差スタート (1 回のスタート最大 100 人、スタートの間隔 5 分以上あける)、更に交通整理員の配置を義務付ける。皇居外苑のホームページに「皇居外苑におけるマラソン利用の取扱について」が 6 月 17 日掲載され、9 月 1 日実施の団体利用より適用となりました。

これを受けて日比谷公園健康広場での受付から桜田門前広場でのスタートまでの誘導、周回ランナーとスタートランナーの分離、給水のタイミングなど多数の懸案事項を想定、対応を図りました。しかし、今回初めて皇居管理事務所の担当者から「ゴールテープ使用禁止」の指導がありました。そのため皆様にはゴールが不明確となり、大変ご迷惑をおかけしました。このような環境の中で CR のコンセプト「ゆっくり走って楽しく貢献しよう」に賛同して頂いた多くの皆様に感謝致します。

今年の*1 コアボラは 5 人(社会人 3 人学生 2 人)でした。コアボラは、2011 年 12 人、2012 年 13 人でしたので、非常に不安な船出でした。先輩たちの蓄積を活かし、アイデアを盛り込み工夫しながら、コアボラ 5 人が一丸となって進めて行ったことに敬意を表します。また、*2 当ボラ有志による GF 開催までの準備のお手伝いは、今までなかったことでした。改めてお礼申し上げます。

今年の支援先は、認定 NPO 法人国境なき子どもたち(KnK)の「バングラデシュ国ダッカ市のストリート・チルドレンに向けたドロップインセンター事業」です。閉会式では、*3 ムハマド・ユヌス氏と同じ誕生日 6 月 28 日のランナー(5km 参加者)とバングラデシュの独立記念日 3 月 26 日と同じ誕生日のランナー(10km 参加者)のお二人をバングラデシュ賞として表彰しました。また、第 1 回 CR 開催と同じ 1994 年 10 月生まれのランナー(20km 参加者)を表彰しました。ランナーを拝見して、CR の成長を実感しました。おとなになった CR をこれからも宜しくお願いします。

第 20 回チャリティーラン実行委員長 WRJ 副代表理事 徳永 京一

*1 コアボラ=コアボランティア

7 月 24 日、(特活) 国際協力 NGO センター (JANIC) が主催したコアボラ説明会で初めて出会い、準備を行ってきた核となるボランティアのこと。当ボラ説明会、CR 展示ブースや閉会式の企画・運営、当ボラのサポート及び進行管理を行う。

*2 当ボラ=当日ボランティア

フェスタ当日に活動するボランティアのこと。コアボラ・WRJ と共に CR 展示ブースや大会運営を行う。

*3 ムハマド・ユヌス氏

英国統治下にあったバングラデシュの南部チッタゴンの宝石店の二男として生まれる。バングラデシュにあるグラミン銀行の創設者、経済学者、マイクロクレジットの創始者。2006 年、ノーベル平和賞受賞

今年の支援先

■認定 NPO 法人国境なき子どもたち (KnK) の「バンクラデシュ国ダッカ市のストリート・チルドレンに向けたドロップインセンター事業」

アジア最貧国のひとつであるバングラデシュの首都ダッカでは、30 万人以上の子どもたちがストリート・チルドレンとして路上生活を送っている。子どもの教育を受ける権利の侵害はもとより、身体的・精神的な苦痛に苛まれる生活を送る子どもたちは、時に生命の危機に晒される状況にある。KnK は、ストリート・チルドレンとして暮らす子どもたちを対象に、週五日・朝 9 時から夕方 5 時まで、彼らが自由に立ち寄ることが出来るドロップインセンターを 2011 年 9 月ダッカ市内に開設した。今回申請のプロジェクト概要は、次の通りである。

【実施期間】

2013 年 4 月 1 日～2014 年 7 月 31 日

【実施内容】

- ・基礎教育とレクリエーション、昼食の提供
センター開所時毎日：プロジェクト期間中 320 日
一日平均 40 人(延べ平均 12,800 人=40 人×320 日)のストリート・チルドレン
- ・啓発活動
プロジェクト期間中 コミュニティ向けと子ども向けに各 4 回実施
一回平均で近隣コミュニティから大人 40 人、センターの子ども 40 人、各 4 回実施(延べ平均 320 人=80 人×4 回)の近隣住民とストリート・チルドレン
- ・生活支援および定期的な健康診断の実施
プロジェクト期間中 3 回実施
生活支援：一日平均 40 人(延べ平均 12,800 人=40 人×320 日)のストリート・チルドレン
健康診断：一回平均 40 人が参加×3 回実施(延べ平均 120 人=40 人×3 回)
- ・家族への再統合
1～3 ケース(1～3 のストリート・チルドレン)の再統合を想定

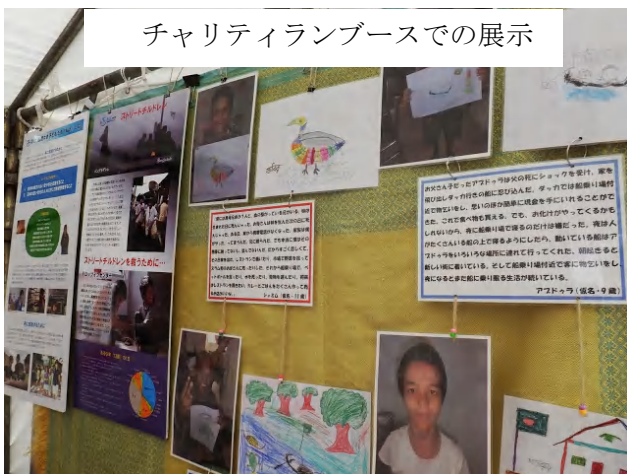
(以上、プロジェクト申請書より引用)

※認定 NPO 法人国境なき子どもたち

ホームページ (<http://www.knk.or.jp/>)

活動ニュース

<http://www.knk.or.jp/act/BGD/news/131002.html>
を参照願います。



昨年の支援先からの報告

■(特活) グッドネーバーズ・ジャパン (GNJP) の「ルワンダ共和国における給水施設の普及と衛生教育の導入による子どもの健康改善事業」

この地区は未だ様々な形で差別を受け、公共サービスの欠陥から不衛生な水を飲料水等や生活用水として利用する他なく、水の飲用及び衛生に関する知識不足が与える子どもへの影響は多大でした。また、ここでの子どもの主な仕事である水汲みは、子どもにとって重労働であり、健全な発育を阻害していました。今回の支援で給水施設を 4 基設置することが出来ました。

そして、衛生に対する意識向上を目的に保健師への育成トレーニングを実施、その保健師からの衛生教育を住民に対して行いました。さらに衛生用品(歯ブラシ、歯磨き粉、石鹸など)を配付しました。

【対象地域】

南部州カモニ県ルンダ郡カギナ地区

【支援内容】

給水施設 4 基設置、住民への衛生教育

【対象者数】

カギナ地区全 1124 世帯 5539 人と周辺地区の住民

※GNJP ホームページ <http://www.gnjp.org/>

「ルワンダにおける給水施設建設・衛生教育事業報告 2013.09.27」を引用しました。

http://www.gnjp.org/reports/2013/report_20130927.html



コミュニティ衛生教育の様子

チャリティーラン実施報告

《レース参加者数》

	エントリー者数	出走者数
20 km	248	207
10 km	257	203
5 km	185	157
合計	690	567

《チャリティー金額》

1,243,000円

《チャリティーラン運営人数》

スタッフ、ボランティア：総勢98名

《閉会式》

13:00～14:00（於：日比谷公園内小音楽堂）

・関係者挨拶

JANIC 理事長

株式会社ウイ様

デザイナー新井文月様

・大会結果報告

・支援先コンペ方式の説明と選考結果報告

・支援先（KnK）へのチャリティー目録贈呈

・KnKからのプロジェクト内容の説明

・昨年の支援先であるGNJPからの報告

・特別賞の授与

チャリラン賞、バングラデシュ賞等

・KnKのプロジェクトに関するクイズ大会

貢献いただきありがとうございました

＜株式会社オルター・トレード・ジャパン様＞

今年もバランゴンバナナを安価でご提供頂きました。ランナーの皆さんが走り終わったあとに食べて頂いたバナナです。ありがとうございました。

○ホームページ (<http://altertrade.jp/>)

閉会式の賞品として、下記の団体の皆さまからご提供いただきました。ありがとうございました。

・ネイル ＜株式会社アルーシャ様＞

○ホームページ (<http://www.arusha.co.jp/>)

・コーヒー ＜虎の門本舗株式会社様＞

○ホームページ (<http://www.hawaiianrich.com/>)

＜認定NPO法人国境なき子どもたち(KnK)＞

閉会式に参加のランナーの皆さまに、KnKオリジナルTシャツのプレゼントがありました。閉会式のクイズ大会でKnKスタッフがお伝えする、あるキーワードと、チャリティーランのゼッケンを持ってKnKブースまで行けば、先着60名の方にTシャツがプレゼントされました。楽しい‘仕掛け’をありがとうございました。

＜株式会社ウイ様＞

今年もボランティアの皆さんが着用していたTシャツをご提供頂きました。デザインはデザイナーの新井文月様です。ランナー、そしてボランティアともに力づけられました。ありがとうございました。

○ホームページ (http://www.weltd.co.jp/top_jan.html)

デザイナー＜新井文月様＞

この絵はチャリティーする人達を天使にみたてて描きました。何かをしてあげようとする人は、巡って自分に還ってきます。

○ホームページ (<http://blog.araifuzuki.com/>)

支援先の選定方法について

第13回チャリティーラン(2006年)から毎年、グローバルフェスタ(以下GF)出展のNGO団体に対して、資金を必要とするプロジェクトを公募し、グローバルフェスタJAPAN2013実行委員会チャリティーランチーム（(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)、(特活)ワールドランナーズ・ジャパン(WRJ)、コアボランティア）で審議して決定しています。

今年は、12件の応募がありました。プロジェクト実施期間とそのプロジェクトの継続性、予算規模や予算の妥当性などを議論しました。特に今年はGF当日のチャリティーラン展示イメージがより具体的であった認定NPO法人国境なき子どもたちの「バングラデシュ国ダッカ市のストリート・チルドレンに向けたドロップインセンター事業」に決定しました。



左はコアボラ全体リーダーの今村さん

参加者の感想

《★チャリラン賞★》 狩野 真由子さん

私は中学校の頃から陸上部に所属しており、走ることが大好きでした。高校のころから国際協力に興味を持ち始め、自分でも何か貢献できることはないかとずっと考えておりました。

今回、自分の大好きな走ることで貢献ができるというこのイベントを知り、参加するしかないと思い参加させていただきました。コース上にいらしゃったボランティアの方々の応援もさわやかで、とても気持ちよく走らせていただきました。このイベントを機に、さらに国際協力に魅力を感じました。ありがとうございました。

※「チャリラン賞」について

第1回チャリティーラン開催の年月（1994年10月）生まれの方へお贈りいたしました。



表彰式の様子（思わずガッツポーズ！）

コアボランティアの感想

【全体リーダー：今村 将さん】

以前から国際協力に興味があり、手始めにボランティアからスタートしてみようと思ったのがきっかけです。どちらかというイベントの要素が強かったものの、楽しみながら終えることができました。

今年はコアボラの人数が少なく、自分自身が忙しく周囲に迷惑かけながらも一定の貢献はできたと感じているので意義は深かったです。地球の裏側で問題を抱えている人たちがいて、それを解決できるのはこういった国際協力を行っている団体なんだということを改めて感じ、今後もなんらかの形で国際協力に関わっていければと思います。ありがとうございました！

【当ボラ説明会リーダー：横川 裕太さん】

私が今回のチャリティーランに参加できたのは、JANICにインターンとしてエントリーした際、たまたま紹介されたためであり、ほんの偶然でした。しかし実際に大会を終えると、なぜ本大会が20回も続けられたのかがよく理解できました。本大会は単に



中央が河野さん

走ることを通じて支援を行うだけではなく、ランナーやボランティアなど、関わる人すべてが笑顔になれる大会なのです。こうした素晴らしい大会はWRJの皆様のご尽力あってのものだと思います。本当にありがとうございました。

【支援先リーダー：河野 有希さん】

コアボランティアとして支援先団体とのやり取りを主に担当しました。初めてのボランティアで、今年は人数も少なくどうなるか心配でしたが、イベント全体に関わることができ、やりがいが大きかったと感じます。昨年度支援先のグッドネーバーズジャパンさん、今年度支援先の「国境なき子どもたち」と事前に打ち合わせを行い、実際に支援するプロジェクトに携わる方のお話をうかがうことができ、チャリティーランと支援先とのつながりを実感出来たことは大変貴重な経験でした。

【閉会式リーダー：三輪 岳史さん】

「NGOの活動を身近に感じたい」。それがコアボランティアに応募した僕の動機でした。ミーティングを通して知る様々なNGOの活動内容はとても刺激的で、社会の中でのNGOの立ち位置や活動意義について考える、良いきっかけになりました。

個性豊かなメンバーに囲まれながらのミーティングはとても楽しく、また、同じランナーとして、チャリティーランの参加者をサポートする仕事にもとてもやりがいを感じていました。今は、「もっと貢献したかった」という気持ちでいっぱいです。

この度は、コアボランティアというとても重要な役割を担わせて頂き、本当にありがとうございました。

【CRブース展示隊長：江頭 由佳さん】

ボランティアとして参加した今回のチャリティーランですが、普段ランニングも何もしない私にとってチャリティーランで走っているランナーさんと触



左から江頭さん、横川さん、将司さん

れ合えたあの日はとてもキラキラした 1 日になりました。様々なバックグラウンドを持つ人々と普通の生活では味わえない達成感を味わうことができたこと、充実した時間を共に過ごせたこと、とても誇りに思っています。そして共に活動したコアボラのみなさん、そしてワールドランナーズ・ジャパンのみなさんに心から感謝します。ありがとうございました。



参加者から誓約書を受け取る三輪さん

当日ボランティアの感想

【加藤 悠太さん】

今回は、チャリティーランでは 3 度目となるコース管理を担当させていただきました。昨年は生憎の雨でしたが、今年は天気が崩れることもなくスタッフとしても非常にやりやすかったです。

私の担当箇所は大きな仕事はなく声掛けに終始しましたが、手を振って応えてくれるランナーの方、笑顔で返してくれるランナーの方など、応援しているこちらにも温かい気持ちになりました。改めてランナーとボランティアの皆で作り上げている大会なのだと感じました。

走ることが誰かの助けになる—こうした間接的な支援はともすれば見えなくなります。ボランティアとして関わるとき私の行為は目の前のランナーに、そしてランナーは走ることによってどうしても力が入ってしまうでしょう。それでも、こうした目の前の誰かへの行為が、目を上げた先の誰かへと通じている、ということはとても貴いことだと思います。来年もまたこの大会に関わりたいと思います。



これからコースに向かいます



閉会式の様子

【柴田 亜矢美さん】

私がグローバルフェスタ自体を知ったのは昨年初めてで、今年は何か自分でもボランティアとして関わることができないかと思っていたところにチャリティーランのことを知りました。走ることも好きですが、ランナーの方々を間近でサポートするというとても貴重な経験をすることができ、とても楽しかったです。ランナーの方々がそれぞれに意気込みや思いをもって参加されて懸命に走られている姿にとっても感動しました。次回はランナーとして参加してみたいなと思いました。このような機会をいただき、ありがとうございました。

【小松崎 康文さん】

“走ること”は自分で気軽にできるということから始めたものの、自分のタイムばかり考えていることに気づいたとき、チャリティーランに参加したのが自分にとって大きな一歩でした。走りながら募金できるということにうれしさを感じたのを覚えています。

今では、その走っているランナーをサポートする側になりました。ランナーの皆さまへの声かけや給水はやってみて大切な仕事だと思いましたし、やりがいも得られます。もちろん楽しいと思います。さらに、何より皆さんの走る姿を見ることが、自分の走ることにモチベーションの維持につながっているように思えます。

【森 貴義さん】

昨年別の団体のボランティアとしてグローバルフェスタに参加し、その時にチャリティーランのことを知りました。私も週末は走っており、今年は是非このイベントにボランティアとして携りたいと思い参加しました。

コースマネジメント担当としてランナーや歩行者の安全管理をさせていただきましたが、大きな事故なく終えてほっとしてい



笑顔でボランティア！
出会いがあるかも！？

WRJブースからの報告

コンテンツが多すぎて運用が複雑過ぎた昨年の反省から、今年は、恒例となったランニングマシンを持ち込んでの「みんなでチャリティーリレー」と、WRJ 主催大会の開会式ではお馴染みとなった歌手の Sunny さんによる「タンザニア国歌独唱」の2つの催しに今年は絞り込みました。

タスキで繋ぐ「みんなでチャリティーリレー」結果

・10/5 (土) 天気：雨 88 人

・10/6 (日) 天気：晴 106 人

以上、2日間合計 194 人、募金額 26000 円



「みんなでチャリティーリレー」の様子

お手伝い頂いたボランティアの皆さんの活躍により、WRJ ブースは今年も盛り上がりはフェスタ中で1番だと思います！！とにかく全員で朝から晩まで大声で盛上げ、スタッフ自らも楽しめたイベントになったと思います。余りにも盛上げ過ぎていたせいか恥ずかしがる参加者もおられました、実際に走ってみると皆が笑顔でゴールを迎え、次にタスキを渡す走者を自ら探して下さる程に楽しんでくださいました。とにかく目立っていたので、期間中2度のTV取材を受け、芸能人の藤岡みなみさんも生中継でチャリティーリレーに参加し、タスキを繋いで下さいました。

また初の試みとして「タンザニア国歌独唱」は、Sunny さんの魅力ある歌声により、予想通りに大勢

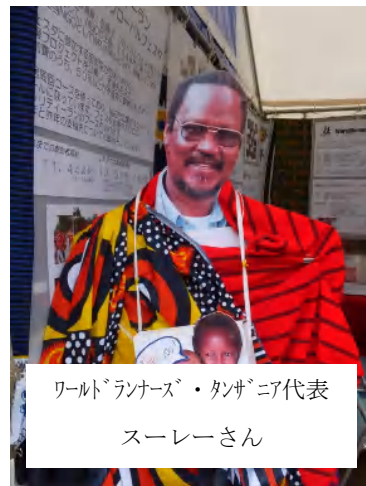
の方々がブース前に足を止めて下さいました。急遽ランニングマシンで走りながら、ディズニーの「A Whole New World」を歌うといった無茶ぶりも快く受けて下さり、従来のブース出展概念を一新した斬新な催しを提供できたことは間違いのないと思います。

然しながら、その時に集まって下さった方々に対して WRJ を知ってもらう仕組みを用意しておかなかった事は、運営側の反省点として改善しようと思います。

数値的な結果としては惜しくも 200 人に届きませんでしたが、タスキを繋いでくれた多くの方々が「走って貢献する」という体験をし、そしてその方々には WRJ の事を知って頂けたと思うので、ブースとしての目的を十分に達成できたと、昨年に引き続き大きく貢献できたのではないかと思います。ランナーの皆さま、ボランティアの皆さま、応援してくれた全ての皆さまに感謝致します。

次回2月のランニング感謝祭では、チャリティープチ運動会かな？玉入れとかして…

運営委員 大淵 秀仁



ワールドランナース・タンザニア代表

スーレーさん

Sunny さんによる「タンザニア国歌独唱」



「WRJ ブースチーム」オールキャスト



今年も、WRJ ブースは最も注目を集めたブースの一つでした。「とにかく、やってみよう！」というスタッフの意気込みが、多くの人の参加に繋がったと思います。「みんなでチャリティーリレー」では、初めは緊張していた参加者も、走り始めると笑顔になります。皇居でのチャリティーランと同様に、ブースでも走ることや貢献のための良い機会を提供できたと思います。WRJ の活動やアフリカプロジェクトについて説明する絶好の機会にもなりました。

多くの人と一緒に、一体となって活動できたことは嬉しく、来年も WRJ ブースが大いに盛り上がることを期待しています。

理事 金子良太

Sunny さんの歌声響く



WRJ ブースにて

NY 留学中に震災チャリティーライブで注目を集め帰国後にスカウト、音大を卒業後はソロライブ、CM ソング、DAIKANYAMA COLLECTION に出演など、多岐に渡り活躍中の Sunny さん。WRJ 主催大会でのタンザニア国歌独唱ならず、今回のグローバルフェスタの WRJ ブースでもタンザニア国歌を、そしてチャリティーラン開催当日には受付場所であった日比谷公園の健康広場でもバングラデシュ国歌を独唱してくれました。この歌声には皆さんも思わず足を止め、聞き惚れたことでしょう。

Sunny さん、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします！



健康広場にて

ご協力ありがとうございました



司会の大出さん



受付開始！



ドリンクをどうぞ！



チャリランブースにて



自転車を追尾！



チャリティーラン、イエー！



走りに来てくれて、ありがとうございました！

WRJ 2013 年度事業を進めるにあたって

まず、チャリティーラン開催に関わって下さった全ての皆様に心より御礼申し上げます。

なお、WRJ の活動も本年 8 月、モスクワ以来 25 年を経過して 26 年目に入りました。正会員、賛助会員の皆様はじめ、設立以来様々な形で活動を支えて下さった多くの皆様に心より感謝申し上げます。

2013 年度（2013 年 7 月から 2014 年 6 月）事業を進めるに当たり、理事会、総会で合意した方向に沿って、日常的には運営委員会が中心となり事業を実施してゆくこととなります。運営委員の皆様本年度もよろしく願いいたします。

事業内容としては昨年来掲げてきたアフリカ現地とのパートナーシップを持続的に深化して行くことと、「走る NGO WRJ」の会話を拡大し、より多くの人達を WRJ の活動に招待してゆこうというものです。「貢献のために走る機会の提供」については、従来通りチャリティーラン、ランニング感謝祭、チャリティーリレー for AFRICA という形で提供させていただきます。また走る分野から WRJ への参加の機会として重要な「定期ラン」を毎月、「不定期ラン」をその都度開催します。

「アフリカ現地との関係」については、アフリカプロジェクトツアーを再開し、より多くのメンバーに「アフリカの水を飲んで」来て欲しいと思っています。また、現地の次期支援先プロジェクトの選定と持続的サポートが可能なファンドレイズの体制創りが急務となっています。

「WRJ への参加の拡大」については、会員増強キャンペーンと銘打ち一人でも多くの方に WRJ の会員に成って頂き活動を支えて頂くというものです。基本は走る人も走らない人も WRJ のビジョン※に同意出来る方はどなたでも歓迎です。WRJ というスペースを使って楽しみ、貢献し、人を力づけ、自身も力づけられる、そのような自己表現の場として参加していただけたらと、願っています。

WRJ は、本年度も WRJ としてのアイデンティティーを発信し続けてまいります。

皆様には、変わらぬご支援ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

2013 年 11 月 2 日

特定非営利活動法人 ワールドランナーズ・ジャパン
代表理事 加藤 典宇暉

※「走ることを通して地球上から慢性的飢餓を終わらせる」 &

「日本に走ることを通して貢献するという新しい文化を創出し根付かせ拡大してゆく」

新春ランニング感謝祭のご案内

来年 2 月に恒例の「第 15 回新春ランニング感謝祭」を以下要領にて開催します。皆様の参加をお待ちしています。

【日程】 2014 年 2 月 2 日（日）

【場所】 川崎多摩川緑地古市場陸上競技場をスタート・ゴールとするハーフマラソンコースの一部を使う往復コース

【種目】 5km、10km、ハーフ

【スタート時間】

ハーフ 10 : 30

10km 10 : 40

5km 10 : 45

【参加費】 各種目とも 1 人 2,500 円

中学生以下 1 人 1,000 円

※詳しくは、同封のハンドアウトを参照ください。



昨年の様子（寒さに負けず、走ろう！）

WRJ 通常総会開催

9 月 7 日に NPO 法人 WRJ 定期総会を開催いたしました。現在の正会員は 33 名、うち出席された正会員の方は 10 名、委任状提出または書面表決の方 13 名を合わせ、計 23 名による決議を行いました。

加藤代表挨拶に続き、議長：徳永 京一、書記：矢崎 芽生、議事録署名人：加藤 典宇暉・佐藤 高正が選出され、満場一致で以下の議案が原案通り承認されました。

- | | |
|----------|-------------|
| 1 号議案 | 2012 年度事業報告 |
| 2 号議案 -1 | 2012 年度決算報告 |
| -2 | 2012 年度監査報告 |
| 3 号議案 | 2013 年度事業計画 |
| 4 号議案 | 2013 年度予算 |

会の最後には役員の紹介が行われ、和やかな雰囲気の中終了することができました。ありがとうございました。なお、これらの議案は HP にも掲載しております。お手元に資料がない場合は、ぜひそちらもご参照ください。

○ホームページ（事業計画・予算）

<http://www.wrj.jp/wrj.html#kaikei>

定期ラン (since 1994) のご案内

WRJ ではランナーの交流の場として毎月第二日曜日に定期ランを開催しています。

場所は主に皇居周回コース (1 周 5km) で、15:40 頃から竹橋・和気清麻呂銅像前をスタートし、走力に合わせて 1~3 周を走ります。(年に数回皇居以外の多摩川や荒川等で開催しています。)

終了後 18:00 から懇親会を開催しています。(主に「白木屋」・神田西口駅前店: 20:00 終了)。

○定期ラン連絡用メール teiki-run@wrj.jp

(定期ランマネージャー佐藤、和田、鈴木理事に届きます)

※連絡が取れない場合は WRJ 事務局まで
(044-949-1068 加藤方)

■次回 11 月 10 日 (日) 多摩丘陵 (第 234 回)

今回は皇居周回コースではなく、よみうりランド周辺を走ります。終了後は加藤代表自らが腕をふるう料理で懇親会を開催予定です。

集合 13:00、WRJ ワークスペース
(ワークスペースで着替え可)

不定期ラン報告

定期ランの番外編としてスタートした「不定期ラン」も既に 4 回、様々なコースを走りました。

- ・第 1 回 2013 年 4 月 28 日
東京マラソンコースの日比谷から浅草
- ・第 2 回 2013 年 6 月 29 日
東京マラソンコースの日比谷からビッグサイト
- ・第 3 回 2013 年 8 月 25 日
東京オリンピック(1964)マラソンコースの
折り返しから国立競技場
- ・第 4 回 2013 年 10 月 14 日
多摩川・国立温泉を拠点に多摩ロード 50

アフターの懇親会では、次はどこで走ろうかと盛り上がり候補地リストは満載! 日程は未定ですが、次回も計画中です。定期ランともどもご参加下さい。



たまにはいつもと
違うコースで



「会員増強キャンペーン」実施中

WRJ ではただ今「WRJ への参加の拡大」を図るため、「会員増強キャンペーン」を実施中です。

走る人であれ、走らない人であれ、WRJ のビジョン※に同意していただける方ならどなたでも歓迎いたします。ぜひ一人でも多くの方にサポーターになっていただき、当団体の活動を支えていただきたいと思います。

サポーターの皆さまには、年 4 回発行予定のニュースレターをお届けするとともに、各種イベント情報をお届けいたします。

- ★個人サポーター 5,000 円 (1 口以上)
- ★団体サポーター 50,000 円 (1 口以上)

正会員となっていたただける方にはニュースレター・各種イベント情報をお届けする他、年 1 回開催の総会での議決権を取得することができます。こちらは継続的に活動及び運営を担っていただけたという方にご参加いただけます。別途、正会員申込書をご用意いたしますので、ご一報ください。

- ★正会員 10,000 円/年

以上の情報は、下記のアドレスをご参考下さい。
○ホームページ (サポーター・正会員になる方法)
<http://www.wrj.jp/support.html>

[振り込み先]

WRJ 郵便振替口座

東京 00190-6-566997

加入者名

(特活) ワールドランナーズ・ジャパン

※WRJ のビジョン

「走ることを通して地球上から慢性的飢餓を終わらせる」

「日本に走ることを通して貢献するという新しい文化を創作し根付かせ拡大してゆく」

WRJ (ワールドランナーズ・ジャパン)

- ホームページ (<http://www.wrj.jp/>)
- 電子メール (info@wrj.jp)

《☆編集後記☆》

ニュースレターいかがでしたでしょうか。

今号で初めて全面的に編集を担当させていただきました。参加された皆さまの気持ちと、たくさんの笑顔で溢れかえるような内容にしようと心掛けながら、編集いたしました。

私自身もランナーなのですが、運営側として参加するのは大変有意義で、毎回勉強になります。こういった積み重ねを生かし、これからも精進を重ねて参ります。よろしくお願いいたします。

WRJ ブースで「みんなでチャリティーリレー」を走られた皆様、来年はランナーとして皇居を走ってみませんか?

(鈴木 香子)